

日本産たんぽぽ屬ノ研究（其二）

小 泉 秀 雄

H. KOIDZUMI: *Taraxacum* Studies in Japan (II)第二章 邦産たんぽぽ屬ノ分類評論 （次號ニ掲載スル
第 1-8 圖参照）

本章ニ於テハ前章ニ列記セル文献ヲ基トシ、且ツ之ニ漏レタル文献若干ヲ加ヘ、年代順ニ各文献ヲ批判シ、以テ分類其他進歩ノ状態ヲ述ベルコトトスル。
 （註 數字ハ前章掲出文献ノ番號デアル）。

第一期 徳川時代（1868 年以前）

本時代ニ於テハたんぽぽハ日本至ル所皆同一種デ、ソレニ白花ノ變品ガアルコトヲ知テ居タガ、ソレハ別ナ特立種ダトハ勿論思ハナカツタ。故ニ此時代ノ日本ノたんぽぽ屬ハ一種デ、學名モ正名ハナク、末期ニ至リ *Leontodon Taraxacum* ガ草本圖説ニ出タ程度デアツタ。

第二期 明治時代（1868-1912）

1) ノ *T. lyratum* DC. ちしまたんぽぽナルモノハ宮部博士ハ JURCZ. 氏ニ據ラレタモノナルガ、千島ヨリノ産否不確實デ、今日マデ本種ノ眞ノ標本ハ日本ノ何所ニモ藏シテ居ラヌデアラウ。又産出セル確證ガナイ様デアル、恐クハ日本領内未發見ノモノカ或ハ分布セザル種ナランカ、改メテ調査論究スルコトトスル。因ニ樺太ニ産スルトナスハ否ナルベク、39) ノモノハ別種デアル。

2) ノ var. *albiflorum* MAK. ハ兎モ角從來日本ノたんぽぽハ一種デソノ白花變品ガアルト思テ居タノガ牧野氏ニ依テ其 var. トサレ、學術的ニ認識サレタ。然シたんぽぽトハ可ナリ縁ノ遠イモノデ單爲生殖ヲスル別種(*T. albiflorum*)タルコト明白トナツタ。

補 1) 松村任三：「日光山植物目録」p. 92 (1894) たんぽぽ *T. officinale* WEB. var. *glaucescens* KOCH. ヲ記ス。

3) ニ於テ日本ノたんぽぽヲ之ト非常ニ縁遠イせいやうたんぽぽノ變種ニ當ルモノト解セル〔之ニハ 2) モ同様〕ハ誠ニ不當ノ見解デ、今ヨリ之ヲ見レバドウシタコトカト思フデアラウガ、ソレハ時代的ニ致シ方ハナイ。乙ハ總苞外片ハ強ク反捲シ内面淡色、内外片共ニ霜白ヲ帶ビ、常ニ無角デ甲トハ葉モ花モ花莖モ格段ノ差ガアル。補 1) 及ビ此 var. *glaucescens* モ、9) ノ var. *corniculatum* モ、13) ノ var. *genuinum* モ凡テ不當デアル。

4) ハ 3) ヲ見ヨ。

5) ハ數量的觀察デ生態上ヨリモ有益ナル發表デアル。余ハカツテ旭川ニ於テくもまたんぽぽ(大雪山産)ヲ移植シ、花軸ノ變化ヲ觀察セシガ、初メ蕾ヨリ開花マデハ直上シ花ガ凋萎スルニ及デ下彎曲シ、果實ノ成熟スルニ及デ再び直立シ種子ヲ飛散スルヲ觀タ(第1圖 12)。

6) ハ3)ヲ見ヨ。

7) ノみやまたんぽぽヲせいやうたんぽぽノ變種ト考定サレタノハ此時代トシテハ最モデアルガ、現在之ヲ觀レバ非常ニ縁遠イモノダ。即チ甲ハ葉柄有翼葉ハ分裂少ク、殆ト無毛又ハ微毛、葉先微突頭、花莖少數、總苞外片ハ不反捲、頭花ノ周邊ハ不揃ヒ、花冠ハ多クハ無毛乃至少毛、果實ハ二深溝ヲ以テ區別スル、中井博士ガ *T. japonense* NAKAI. [33] 参照] トサレタモノガ之デアル。

8) ハ農學士高橋良直氏ノ報知ニ依テ牧野博士ガ書カレタモノダ、而テ植雜第十八卷、二百八號、九三頁ニ牧野氏ハ〔6〕参照〕「……白花品ハ黃花品ト共ニ各 *T. officinale* WEB. ノ變種ニシテ其天籍極メテ相邇キニ係ラズ往々兩品混生スルモ、其間未ダ曾テ兩品間ノ雜種ヲ生ゼズ、是聊カ記スベキ事情タルヲ失ハズ」……ト記サレタ。以上ノ觀察ニヨルモノ各ノ獨立種タルヲ證スルガ、今日ト雖モ雜種ヲ見ナイ、恐クハ縁遠キト白花品ノ單爲生殖ニ原因スルモノナランカ。

9) ハ3)、7)、1)、ヲ見ヨ。

以上ニ依テ見ルニ本期ニ於テたんぽぽノ分類學の考察ハ非常ニ幼稚デ歐米各國ニ比シテ著ク劣テ居タノハ否メナイ。學名ハ皆不當デアツタガ DAHLSTEDT 氏ニ依テ日本産ノ二種ガ確定サレタコトハ特筆スベキコトデアル、即チ一ハたんぽぽニ非ズシテ現在ノくわんとうたんぽぽ *T. platycarpum* デ他ハしろたんぽぽ *T. albidum* デアル。共ニ小石川植物園内ノモノヲ同氏ニ送附シタト云フコトデアル。

第三期 大正時代 (1912-1926)

10) 此學名ノ不當ナルハ7)ヲ見ヨ。但シ本山頂附近ニハみやまたんぽぽ一名たかねたんぽぽハ絶對ニ産シナイ。本山ノモノハ此度新種トシテ發表シタ *T. imbricatum* H. KOIDZUMI ぬぞふじたんぽぽ(新稱)デアルガ此外ニ何カ別種ガアルカモ知レヌ。

補2) 加藤賢三:「白山」p. 99 (1911) たんぽぽヲ記ス。之ハみやまたんぽぽノコトデアル。7) 参照。

11) ニたんぽぽノ主品即チ黃花品ヲ *T. platycarpum* トシテアルガ之ハ誤リデ草木圖説ノ著者飯氏洵ガ檢センハ之デナイコトハ分布上ヨリモ明白ナルガ、サテ然ラバ何種ナルカハ明言シ難イ。同氏ノ記事ト分布上ヨリ推察シテ之

ハミのたんぽぽ *T. minoense* H. KOIDZUMI カ或ハくわんせいたんぽぽ *T. japonicum* Koidz. ト首肯サル、之ハ當ラズト雖モ決シテ遠クナイト思フ。眞ノたんぽぽハ *T. hondoense* NAKAI デアル。

補 3) 神奈川県植物調査會：「箱根植物」p. 196 (1913) たんぽぽヲ記ス。同山ノたんぽぽハ凡テくわんとうたんぽぽ *T. platycarpum* ナルハ余ガ本年五月ノ調査ニ依テ確メタ。

12) HANDEL-MAZZ. 氏ノ *T. mongolicum* ハ多數ノ種ヲ包含スルモノデ、氏ノ分布圖ヲ見ルト日本ノたんぽぽノ多クハ此中ニ含マル、様デアル。然シ眞ノもうこたんぽぽ（新稱）ハ滿、蒙、鮮ニ分布シ日本ニハ分布シナイ。南千島ヨリ根室國。釧路國ノ海岸附近ニ分布スルモノハ、昭和五年（1930）ニ余ノ發表セル *T. yezoense* H. KOIDZUMI (= *T. shikotanense* KITAMURA) ねむろたんぽぽデアル。本文獻ニ恐クハ輸入ナラント書テアルガ、之ハ自生ト見テヨイト思フ。40) 参照。

13) みやまたんぽぽニ就テハ 7) ヲ見ヨ、學名ハ *T. japonense* NAKAI デアル。たんぽぽニ就テハ 11) ヲ見ヨ。たんぽぽノ正シキ學名ハ *T. hodoense* NAKAI, H. KOIDZUMI Bot. Mag. (Tokyo) XLVII. p. 119 (1933) デアル、52) 参照。

14) 余ノ調査デハ樺太ニみやまたんぽぽハ産シナイ。而テ此學名ノ種ハ他種デアルガ、果シテ何種ナルヤハ第四章及第五章ヲ見ヨ、ちしまたんぽぽ（新稱）トアル *T. lyratum* ニ就テハ 1) ヲ見ヨ。恐クハ他種ナラン。

15) みやまたんぽぽニ就テハ 7)、13) ヲちしまたんぽぽニ就テハ 1)、14) ヲ見ヨ。たんぽぽニ就テハ 11)、13) ヲ見ヨ。

16) 臺灣ニハ *T. platycarpum* ハ産セズシテ *T. formosanum* (50) ヲ見ヨ] デアル。*T. platycarpum* くわんとうたんぽぽ（たんぽぽハ誤リ）ノ分布區域ハ先ヅ相模國ヨリ常陸國ノ間デアルガ西南ハ或ハ遠江マデ點々延長スルカモ知レス。

17) みやまたんぽぽノ亞變種トシテたかねたんぽぽヲ發表サレタガ、今日精檢スルニ彼トハ非常ニ縁遠イモノデアルカラ、此度新種 *T. yuparense* H. KOIDZUMI sp. nov. ゆうばりたんぽぽ（新稱）トシテ發表シタ。和名ノたかねたんぽぽハ古クカラみやまたんぽぽノ異名トシテ使用サレツツアル外學名ハ更新スル故之ハ採ラナカツタ。みやまたんぽぽノ分布ハ日本中部諸高山ノ寒地帯ニ限ル。

18) = 17) ノ學名ヲ使用シタノハ誤リデ、之ニ就テハ 17 参照。又 *T. ly-*

ratum フ河野齡藏氏ニ據テ 掲出シテアルガ元ヨリ不當デ、極メテ縁遠イモノデアアル外、日本ニ産否?ノ種タルハ1)、14)ヲ見ヨ。夕張岳産ハ17)ノモノデアアル。

補4) 小泉秀雄:「北海道中央高地ノ地學的研究」p. 127 (1918) = くもまたんぽぽ(新發見)ヲ記シ、P. 74 (1918) = たかねたんぽぽ *T. officinale* WEB. var. *lividum* KOCH. svar. *dissectissimum* KOIDZ. ヲ記ス。甲ノ學名ハ38)ヲ、乙ノ學名ハ17)、18)ヲ見ヨ。

19) 之ハ中井博士ガ東大標本室所藏ノみやまたんぽぽノ標本ニ對シ、從來ノ學名ノ不當ヲ氣付キ、新學名ヲ記サレタモノデ、みやまたんぽぽノ研究者ハ此學名發表即チ、小泉博士ガサレタ中井博士ノ研究發表ヲ極メテ重要視スル必要ガアル。同博士ハ後更ニ之ヲ新種ト考定シ33) = *T. japonense* NAKAI トシテ發表サレタ。之ガ本種ノ眞ノ學名デアアル。

29) 工藤博士ハ1922年ニ北千島ヨリ *T. ceratophorum* DC. ナルたんぽぽノ一種ヲ發表シ、其後1924年、23) = 同學名デ和名ヲをくたんぽぽ(新稱)トシテ發表サレタ。之ト同年ニ小泉博士ハ22)デ *T. ceratophorum* DC. みやまたんぽぽトシテ發表サレタ。以上ノ見解ノ正否ヲ確メンガ爲メ余ハ1932年北千島三島ノたんぽぽヲ百數十株採集シテ檢セシニ、北千島ニ同學名ニ相當スルモノ無ク、其他樺太、北海道、本州ノ各地ニモ見當ラナカツタ、依テ余ハ日本領内ニハ此學名ニ相當スルたんぽぽハ無カラウト思フ、ヤハリみやまたんぽぽノ學名ハ *T. japonense* NAKAI トシ、日本特産トスルヲ正確ト思フ、尙此事ニ就テハ後ニ詳細ニ述ベル。

補5) 梅村甚太郎:「富士山植物誌」P. 22 (1923) *T. officinale* WEB. var. *glaucescens* KOCH. たんぽぽヲ記ス。學名ハせいやうたんぽぽノ學名ナルガ、恐クハ他種ナラン。

21) 此學名ノ不當ナルハ7)、13)ヲ見ヨ。日本南アルプス即チ赤石山系ノ寒地帯ノたんぽぽハ凡テ *T. japonense* NAKAI みやまたんぽぽデアアル。

22) 現在デハしろ(ばな)たんぽぽノ學名ハ *T. albidum* DAHLST. トナリ、ベニばなたんぽぽノ學名ハ *T. kondense* NAKAI. var. *genuinum* H. HOIDZUMI, form. *rubicunda* H. KOIDZUMI トナリ、みやまたんぽぽハ *T. japonense* NAKAI トナル。尙みやまたんぽぽニ就テハ20)ヲ見ヨ。

23) = 就テハ20)ヲ見ヨ。

24) みやまたんぽぽノ學名ハ19)、20)ヲ、ちしまたんぽぽノ學名ハ1)、14)、18)ヲ、たんぽぽノ學名ハ8)、11)、13)、16)ヲベニばなたんぽぽノ學名ハ22)ヲ

見ヨ。きれはあざみたんぽぽトアルハきれはあかみたんぽぽノ誤記ナルハ 22)ヲ見ヨ。

25) みやまたんぽぽ *T. japonense* NAKAI ノコトデ立山ノ寒地帯ニハ本種以外ノたんぽぽハナイ。

26) くもまたんぽぽノ學名ハ 38)ヲ見ヨ。余ハ之ヲみやまたんぽぽノ變形トシ *T. ceratophorum* DC. form. *frigidum* H. KOIDZ. トシ 1928 年大雪山調査會發行ノ繪端書ニ發表シタコトガアツタ。

27) 薩摩ハ本種分布ノ南限デアルコトヲ余ハ本年四月實地調査ニ依テ確メタ。

28) 中井博士ガ熱海ヨリ採テ發表サレタモノナルガ、余ハ別ニ伊勢南方ヨリ採テ居ル。以上ノ如ク大正時代ハたんぽぽ屬ノ研究ハ尙ホ幼稚ニシテ種類少ク未解決ノ問題モ少クナカツタ、即チ未ダ根本的ノ調査研究ニ入ラナカツタト云テヨイ。

補 6) HISAUCHI: "Florula Musashinoensis" p. 8 (1926) *T. platycarpum* DAHLST. たんぽぽヲ記ス。

第四期 昭和時代 (1927 年以後)

29) 白山ノ寒地帯ニ産スルモノハみやまたんぽぽ *T. japonense* NAKAI デアル。

30) 余ハ 1932 年 アライト島ノたんぽぽヲ詳細ニ調査シタガ *T. latisquamum* ニ相當スルモノハ無カツタ、同氏ノ實物ヲ見ヌ中ハ何トモ斷定シ兼ねル。

31) 奈良縣ニハ此外クわんせいたんぽぽ廣布ス。

32) 之ニ就テハ 16)ヲ見ヨ。

33) みやまたんぽぽノ學名ノ決定サレタ論文デアル。尙 7), 19), 20) 参照。

34) しろばなたんぽぽトくわんせいたんぽぽノ記事ニ就テハ誠ニ其通りデアル。唯たんぽぽトサレシモノハ何ナルカ、記事ニ依テ判定スルニきれはあかみたんぽぽニ相當スルガ如クナルモ實物ヲ見ザレバ斷定サレヌ。たんぽぽ *T. hondoense* ノ分布ハ北ハ北海道中部以南、奥羽、關東ノ大半（常陸、上野、下野、武蔵、上總）中部（信濃）、北陸道（越後、越中）ノ北半ニ分布シクわんせいたんぽぽトノ混合分布地帯ハ少ナイ。

35) たんぽぽトアルハみやまたんぽぽノコトデアル。29) 参照。

36) 尙備中ニハ此度發表セシ *T. bitchnense* H. KOIDZUMI (びつちゆうたんぽぽ) *T. Hideoi* NAKAI (きびしろたんぽぽ) ノ二種ヲ産ス、甲ハ吉野氏ノ見出ニ係リ、乙ハ余ノ親シク採集發見セシモノデアル。

37) たんぽぽハ確ニ産ス、但シ學名ハ 11), 13), 52) ヲ見ヨ。しろばなたんぽぽトサレシハ新種デ *T. nambuense* H. KOIDZUMI なんぶしろたんぽぽ(新稱) デアル。本種ヲ送ラレシハ盛岡高等農林學校ノ富樫浩吾教授ナルガ、其ノ白花品ノアルコトヲ教示シ研究ノ動機ヲ與ヘラレシハ實ニ青森營林局ノ村井三郎氏(岩手植物誌ノ著者) デアツタ。厚ク感謝スル。

38) くもまたんぽぽニ就テハ補 4), 26), 5) ヲ見ヨ。アポイ山産ノ *T. sp.* ハ恐クハ *T. apoense* H. KOIDZUMI あぽいたんぽぽナラン。本誌十月號ノ拙論文参照。

39) ちしまたんぽぽトアルハ *T. vulcanorum* H. KOIDZUMI ちやちやだけたんぽぽデアル。本誌十月號ノ拙論文参照。ちしまたんぽぽトハ武田博士鑑定ノ由ナルガ、之ニ就テハ 1), 14) ヲ見ヨ。

40) たんぽぽトツのたんぽぽノ學名ハ 52) ヲ見ヨ。ねむろたんぽぽニ就テハ 12), 52) ヲ見ヨ。

41) たんぽぽノ學名ハ 52) ヲ見ヨ。

42) しろたんぽぽノ學名ニ就テハ 8), 22) ヲ見ヨ。現在ハ原種ノ學名ヲ誤テ其ノ變種トセルモノヨリ新組合セテ作ルコトハ無効トナツテキル。

43) 千島列島ニ *T. ceratophorum* DC. ノ無キコトニ就テハ 20) ヲ見ヨ。

44) 學名ノ批判ニ就テハ 23) ヲ見ヨ。

45) くわんせいたんぽぽ一名ひろはたんぽぽトスルハ否ナリ、後者ノ學名ハ 44) ヲ見ヨ。而テ之ハ伊勢國南方ニ産スルコトヲ余ハ確メタ。たんぽぽノ學名ニ就テハ 11), 13), 52) ヲ見ヨ、但シ之ハ伊勢國ニ産シナイ。之ハ前者ト同一ナラン。

46) たんぽぽノ學名ニ就テハ 11), 13), 52) ヲ見ヨ。

47) たんぽぽノ學名ハ *T. hondoense* NAKAI, var. *genuinum* H. KOIDZUMI デアル、本文獻 p. 407 *T. platycarpum* たんぽぽノ條下ニ「小泉秀雄氏ニヨレバ千島、樺太、北海道、本州、四國、九州、朝鮮ニ及ンデキル」ト記シテアルガ、ソレハ誤記デ、當時 *T. hondoense* ノ分離サレヌ以前ニ所謂たんぽぽナルモノハ北ハ北海道ヨリ本州、四國、九州、臺灣、朝鮮マデ分布スルモノト思ハレテ居タコトヲ話シタ。其後ノ研究ニヨリ真正ノたんぽぽハ北海道中部ヨリ本州中部マデノ間ニ分布スルコトヲ確メタ、分布ニ就テハ尙ホ 34) ヲ見ヨ。次ニ *T. japonense* (NAKAI ヲ脱ス) ヲ記スルガ、之ハみやまたんぽぽノ學名ノ學術的文献ニ現レタ第二回目デ(第一回ハ 33) ニ出ヅ、尙ホ 19), 20) ヲ見ヨ。而モ此ニハ種の特徴トシテ染色體數ヲ示シテアルコトハ注意スベキデアル。又

T. sp. (白馬岳) ト記スルハ本誌十月號ニ余ノ發表セル *T. shiroumense* H. KOIDZUMI しろうまたんぽぽノコトデ、此種ガ前記ノみやまたんぽぽト別ニ白馬岳ノ寒地帯ニ生ズルコトニ就テハ余ハ早ク大正九年ヨリ氣ヅキテ採集シ、相互區別シ、先ニくもまたんぽぽニ近似セル一品トセンガ、後たんぽぽ屬ノ比較研究ノ進行中、本種ヲ再檢圖解セシニくまたんぽトハ全然別種デ、寧ロ「カムサツカ」産ノ一種ニ近キモ總苞及果實ノ形態ヲ異ニスルヲ以テ別種トシ、しろうまたんぽぽト命ジ、*T. shiroumense* ナル學名ヲ用意センガ漸ク近時發表（本誌十月號參照）シタモノデアル。種ノ鑑定ニ於テ外部形態ノ精檢ハ毫モ誤リヲ生ジナイコトハ益々明白トナツタ、分類學者ハ深く自信シ、自重シテ可ナリデアル。

48) 色丹島ノモノハ *T. yegoense* H. KOIDZUMI ねむろたんぽぽデアル。之ニ就テハ 12), 40), 52) ヲ見ヨ。

49) たんぽぽノ正シキ學名ハ 11), 13), 52) ヲ見ヨ。みやまたんぽぽノ正シキ學名ハ 7), 13), 19), 20) ヲ見ヨ。而テ本種ハ北海道ニ産シナイカラ恐ラクハ別種デアラウ。

50) 北村氏が本種ヲ發表スル以前夙ニ余ハ本種ヲ研究シ *T. formosanum* sp. nov. たいわんたんぽぽヲ用意センガ、間モナク同氏ハ臺灣菊科植物 I. ヲ發表セシ故其中ニ本種ノ發表アルベキヲ豫想シ、德義上ヨリ余ノ發表ヲ差シ控ヘタ、然レ後同氏ハ果シテ余ノ用意セン學名ト同一名デ *Acta Ph. Ge. II. no. 1. P. 48* (1933) ニ發表（和名ハ相違シタガ）シタノデ私ハ自分ノ用意セル學名ヲ消除シ同氏ノ學名ニ書キ代ヘタコトヲ發表スル。

51) 中千島ノたんぽぽハ *T. ceratophorum* DC. デハナカラウ、之ハ一種ノミトスレバドウモ *T. yegoense* H. KOIDZUMI ナラント思ヘル、然シ果シテ中千島全體ヲ通ジテ一種ナルカ否カハ今明言出來ヌ、調査ノ上ナラデハ、尙ホ本種ニ就テハ 20) ヲ見ヨ。

52) 東亞産たんぽぽ屬ヲ精檢セル拙論文ノ第一回發表デ 13 種中ニ中井博士命名ノたんぽぽノ正シキ學名ガアル。

53) 之ニ就テ言フベキコトアルガ他日ニ譲ル。

54) 此學名ノ不當ナルハ言ヲ俟タヌ正シクハ 52), 52) ヲ見ヨ。

55) 是ニ就テハ本誌十月號（九卷六號）ヲ見ヨ。

次ニ世間普通ニ行ハル、圖譜、圖鑑類ニ掲出サレシたんぽぽ及ビしろ（ばな）たんぽぽノ和名學名ヲ對照シ參考ニ供ス。但シ以上二種以外ニ出タコトハナイ。尙括弧内ハ余ノ意見ニ從フ正名デアル。

- 1) 齊田功太郎：「^内實用植物圖説」p. 343 (1907)
佐藤禮介：*T. officinale* Wigg. たんぽぽ、(*T. hondoense* NAKAI)
- 2) 同 ^{最新} ^{図説} 内外植物誌 p. 21 (1916)
同 上 (同 上)
T. officinal Wigg. たんぽぽ (*T. hondoense* NAKAI)
- 3) 小笠原利孝：「^{新編} ^野普通植物圖解」p. 56 (1924)
たんぽぽ (くわんせいたんぽぽ?)
- 4) 牧野富太郎：「日本植物圖鑑」p. 23, 24 (1925)
T. albidum DAHLST. しろばなたんぽぽ (正シ)
T. platycarpum DAHLST. たんぽぽ (*T. hondoense* NAKAI)
- 5) 村越三千男：「^集 ^野植物圖鑑」p. 15 (1928)
T. platycarpum DAHLST (*T. hondoense* NAKAI)
- 6) 牧野富太郎：「^原 ^野外植物圖譜」(第一卷) p. 47, 48 (1932)
T. albidum DAHLST. しろばなたんぽぽ (正シ)
T. platycarpum DAHLST. たんぽぽ (くわんとうたんぽぽ)
- 7) 寺崎留吉：「日本植物圖譜」p. 196 (1933)
T. platycarpum DAHLST. たんぽぽ (*T. officinale* WEB.)
せいやうたんぽぽ

備考 村越氏ノ著書ハ 5) ノ外ニ二三アルモ凡テ之ト同一ナレバ省略ス。教科書ニ就テハ以上ト大差ナキカ或ハ之以下ナレバ省略ス。

伊豆下田産ノ畸形ほしだ

久 内 清 孝

Kiyotaka HISAUCHI: A teratological form of *Dryopteris*
acuminata NAKAI.

昭和七年正月朝比奈先生ノオ件デ静岡縣、伊豆、下田町附近ヲ採集シタ。先生ハ日本デ始メテ、イヤ、異様ナ地衣ヲ海中ニ突出シタ岩上ニ發見シテ岩壁ニ張りツイテ居ラレタノデ、コチラモ、何カ問題ニナリサウナモノヲ見付ケテヤラウト、單身簪ノ中ニ這入り、四邊ヲ鷄ノ目、鷹ノ目デ搜シテ見タガドウシテモ目星シイモノガナイ。仕方ガナイカラ、もくれいしノ眞赤ナ果實ノ美感ニ見